様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月　 ８ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６４６３２７７

研究課題名（和文）EBN実践のための看護研究教育モデルの構築

研究課題名（英文）Building a nursing research and educational model for Evidence-Based Nursing practice

研究代表者
田中　理子（Tanaka, Michiko）

九州大学・薬学研究院・特任助教

研究者番号：２０６４８４８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：看護においてEvidence Based Nursing(EBN)実践の看護研究教育モデルを構築するために、インタビュー調査、調査票、文献レビューから看護師の研究リテラシーの現状を明らかにし、大学院修了者を活用することで大学と臨床の連携による組織的なEBN実践のための看護研究教育プログラムを構築した。その結果、職場でのEBN活用は大学院履修者に高い傾向を示しており、EBN担当看護師（PhDナース）が臨床看護師に対しEBN支援を図ることで、研究費取得や看護研究の発表数増加、看護研究実施の定着が図れた。EBN導入による経済効果算出はで/5程度削減が見られたが、病期と合併症が課題となった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop research-education model for evidence based nursing (EBN). Interview, survey, and literature review revealed that EBN was highly depended academic credentials especially graduate degrees. The PhD nurses were effective to support gaining research funding and activate nursing research. The cost-benefit analysis along with benchmarking process showed approximately one fifth of economic effect on EBN introduction for peripheral arterial disease, but stage and complications were issues in the future.

研究分野：看護管理

キーワード：EBN　研究リテラシー　看護研究

1. 研究開始当初の背景

看護において Evidence Based Nursing (EBN) を行うためには、看護師の基本的な研究リテラシーが不可欠である。しかし、看護業務過多、指導者・教育の不足、研究支援体制の未整備等により、EBN の実践・導入する看護研究はほとんど行われていない。臨床看護職による研究活動は病院単位で行われてきたが、科学的方法を踏襲していない研究も多く看護のエビデンスの構築に充分寄与していないことが指摘されるとともに、業務と並行して行う研究活動の困難さが示されてきた。国外でも同様に、病院看護師の研究知識や研究に必要なスキルの欠如、不十分な時間、指導者の不足などが看護活動の障壁として特定 [2]され、看護師の研究実践に対する準備状態を整える困難さを暗示している。

当研究者らは、米国で開発された看護専門性尺度(Professionalism in Nursing Behavioral Inventory)を用い日本の看護師に対する全国調査を行っている。その結果、専門性の構成因子（看護理論の実施・研究の実施・出版活動・継続教育・地域貢献・自律性・組織への参加・看護綱領遵守）のうち、“研究の実施”が弱いことが明らかとなった。特にこの因子得点は臨床経験年数と相関が弱く、大学院卒の看護師は高いスキルを備えているという結果から、大学院卒以外の臨床看護師に対する研究スキル教育が未充足である可能性と管理運営面からの教育資源の投資の必要性を示唆するものと考えられた。このような背景において、日本の臨床看護職の研究に関連する教育背景や研究関連のスキルがどのような準備状態にあるのか明らかにした研究は少なく、測定ツールも見あたらない。EBN を導入し科学的根拠に基づいた看護の実践のためには、まずその障壁と臨床看護師の研究への準備状況を明らかにし、管理運営面からの効率的な支援を検証することが急務となっている。

２．研究の目的

臨床看護師の EBN 構築の現状を把握するとともに、研究リテラシーを向上させ、大学院修了者を活用することで大学と臨床の連携による組織的な EBN 実践のための看護研究教育プログラムを構築する。EBN 導入による看護研究の変容と看護ケアに係わる経済効果を評価することで EBN 導入の評価を行う。

３．研究の方法

1) 臨床看護師の EBN 実施における現状解明のため、文献レビューと 8 名の看護師にインタビューを実施し、EBN に対する意識、実施状況、看護業務手順書の作成方法等の現状調査を行うことで、EBN 導入における課題とその要因、ニーズを明らかにし、看護研究教育モデル構築に反映する。Information Literacy for Evidence-Based Nursing Practice (ILNP)の日本語版を作成し、臨床看護師の研究リテラシーを図る尺度を開発する。

2) 大学院修了者を活用した EBN 導入による看護業務手順書の改訂と看護研究教育モデルを構築、EBN 導入による看護研究の変容と看護ケアに係わる評価を実施する。その際、看護研究助成金の獲得支援や院内で実施される看護研究・EBN の啓蒙・教育・監督・相談なども実施し、看護研究と EBN の定着を図る。

3) EBN に基づいた改訂版看護手順書に沿った看護実施での経済効果を算出する。経済効果算出は Benchmarking process に則り、Cost-Benefit 分析法を用いる。下肢虚血による潰瘍形成に対する入院期間の延長と治療による費用対効果、看護サービスの費用化（related value scale を使用）により総括的な経済効果を算出する。

４．研究成果

インタビュー、アンケート調査、文献レビューの結果から、EBN 実践のための看護研究モデルの概要を明らかにした。EBN 実践のための EBN 実施手順の遵守や研究実施には学位の影響が強く、特に大学院履修者は有意に高かった。インタビュー調査から臨床看護師が EBN 実践時に学術論文等より先輩に情報を求める頻度が最も高く、このことから中堅層や経験年数の長い看護師への EBN 導入が最も効果的な EBN 実践のための看護研究教育モデルとなりえることが示唆された。

そのため、EBN 導入による看護研究教育プログラムを実施には、EBN 担当看護師として PhD ナースが臨床看護師に対し、看護研究助成金の獲得支援や院内・院外で実施される研究会での発表を支援しながら EBN の定着を図ることで、研究費の取得 6 件、看護研究の発表 15 件、論文執筆 5 件であり、年々件数が増加し、看護研究実施の定着化が図れた。

EBN に沿った手順書の導入を実施することで、下肢虚血による潰瘍形成がある患者への経済効果を算出した結果、総括的な経済効果では約 1/5 程度の経費効果が見られたものの、病期と合併症で大きく算出のブレが生じるため、専門家の中でも意見が分かれた。看護サービスの費用化は EBN 実践導入で差は出なかったが、潰瘍発生率は低下、入院期間の延長と治療による費用対効果は病期と合併症で違いがあるため今後の課題としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）

① Tanaka M, Yonemitsu Y, Kawamoto R. Nursing professionalism: A national survey of professionalism among Japanese nurses. *International Journal of Nursing Practice*. 20. 579-587. 2014.

② Tanaka M, Taketomi K, Yonemitsu Y, Kawamoto R. An international comparison of professional behaviors among nurse leaders in the U.S.A. and Japan. *International Journal of Nursing and Clinical Practices*, 2, 113, 2015.

③ Tanaka M, Taketomi K, Yonemitsu Y, Kawamoto R. Professional behaviors and factors contribute to nursing professionalism among nurse managers. *Journal of Nursing Management*, 24, 12-20. 2016.

④ Tanaka M, Yonemitsu Y. Gene Therapy for Peripheral Arterial Disease and Nursing Implications: Clinical Experience on the Use of Send-viral Vector. *International Journal of Nursing and Clinical Practices*, 3, 174, 2016.

⑤ Tanaka M, Taketomi K, Yonemitsu Y, Kawamoto R. The current status of nursing professionalism among nursing faculty in Japan. *Journal of Nursing Research*,25(1),7-12, 2017.

〔学会発表〕（計　13　件）

① Tanaka M, Yonemitsu Y, Kawamoto R. Effect of educational degrees on nursing profession in Japan. 2nd International Conference on Nursing & Healthcare, Chicago, USA, 2014.11.17.

② Tanaka M, Taketomi K, Yonemitsu Y, Kawamoto R. Professional behaviors contributed to nurse manager. The 34th Academic Conference of Japan Academy of Nursing Science, Nagoya, Japan, 2014. 11. 29.

③ Tanaka M, Matsumoto T, Yonemitsu Y. Factors to improve quality of life undergo gene therapy for critical limb ischemia.The 4th World Academy of Nursing Science, Hannover, Germany, 2015. 10. 16.

④ Tanaka M, Taketomi K, Yonemitsu Y. Gene therapy for peripheral arterial disease and nursing implications: Clinical experience on the use of Send-viral vector. The 4th World Academy of Nursing Science, Hannover, Germany, 2015. 10. 16.

⑤ Tanaka M, Yonemitsu Y. The current status of gene-based therapeutic angiogenesis for peripheral arterial disease.11th International Congress on Coronary Artery Disease, Florence, Italy, 2015.11.30.

⑥ Tanaka M, Ikeda Y, Yoshida K, Imamura M, Yonemitsu Y. Gene Therapy Nursing: clinical experience of using viral vectors. 15th Euro Nursing & Medicare Summit, Roma, Italy, 2016.10.18.

⑦ 田中理子、藤野ユリ子、武冨貴久子、米満吉和、川本利恵子：看護教員の看護プロフェッショナリズムに関する調査.第 24 回日本看護学教育学会学術集会、千葉、2014. 8. 27.

⑧ 田中理子、藤野ユリ子、武冨貴久子、今村貞良、米満吉和：慢性閉塞性動脈硬化症による下肢虚血患者の看護に関する実践の報告　-研究看護師の革新的取り組み-.第 18 回日本看護管理学会学術集会、松山、2014. 8. 30.

⑨ 田中理子、川本利恵子：職位別にみた看護プロフェッショナリズムの現状.第 20 回千葉看護学会、千葉、2014.9.13.

⑩ 田中理子、今村真理子、平野香織、吉田久美、米満吉和.下肢虚血の検査評価法 –EQuIP の導入.第 4 回日本下肢救済・足病学会　九州・沖縄地方会学術集会、福岡、2015.9.26.

⑪ 田中理子、武冨貴久子、川本利恵子、米満吉和.大学院教育が看護プロフェッショナリズムに与える影響.第 26 回日本看護学教学会学術集会、東京、2016. 8. 22-23.

⑫ 田中理子、米満吉和：メディカルスタッフ特別シンポジウム：「集結！血管病診療におけるメディカルスタッフの力」研究職としての血管診療への関わり：血管新生遺伝子治療の開発.第 45 回日本血管外科学会学術総会（広島）2017.4.21.

⑬ 武冨貴久子、田中理子：EBN 導入に伴う臨床看護師のレディネスの検証. 第 21 回日本看護管理学会学術集会、神奈川、2017. 8. 19-20.

６．研究組織

(1)研究代表者

田中 理子（TANAKA, Michiko）
九州大学・薬学研究院・特任助教
研究者番号：20648480

(2)研究分担者

藤野ユリ子（FUJINO, Yuriko）
福岡女学院看護大学・看護学部・教授
研究者番号：90320366

武冨貴久子（TAKETOMI, Kikuko）

北海道大学・医学研究科・学術研究員
研究者番号：80543412

宮園真美（MIYAZONO, Mami）
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：10432907

米満吉和（YONEMITSU, Yoshikazu）
九州大学・薬学研究院・教授
研究者番号：40315065